



## 愛川ふれあいの村7月の風景

# 平成26年7月 自然のたより

太陽が照りつけ、蒸し暑い日が続く中、さまざまな昆虫が活発に活動しています。日差しが強い日中でも、日光に当たりながら葉を食べるハムシや、産んだ卵を守るカメムシ、ヒナにエサを与える鳥の親子などの姿が見られます。太陽が沈む頃にはヒグラシの鳴き声も聞こえ、多少涼しくなって過ごしやすくなります。



クサギカメムシの幼虫



夢中で蜜を吸うコハナバチ



ヒナに餌を与えるヒドリの親



オオヘリカメムシ



オオヘリカメムシの幼虫



オオヘリカメムシの成虫



葉を食べているナガメ



ヒグラシ



水面に映るスイレンの花



網戸で休むカノコガ



ジュークヤシヤシの仲間



ゴマダラカミキリ



コフキゾウムシの交尾



ヤツボツツハムシ



ショウリョウバッタ

# ★ハートマークを持つエサキモンキツノカメムシ★

背中にハートを背負う母の愛

ハート型のカツラの葉の裏にエサキモンキツノカメムシが卵を抱えていました。エサキモンキツノカメムシはサンショウやミズキ、カツラなどの実の汁を食料としています。背中にはハートの模様があり、小柄なオスは黄色のハート、オスに比べて大きいメスは白色のハートを背負っています。

メスは産卵すると、卵と幼虫を保護する習性があります。雨が降ったら葉に足を食い込ませ、外敵が来たらはばたいて威嚇をし、全身で子どもを守ります。母親の愛を強く感じ、観察していると私たちのハートも思わず温かくなります。子どもを守りたい気持ちは昆虫も人間も変わりありませんね。



## ★夜に眠るネムノキ★

野外炊事場の近くに、淡いピンク色の花をつけている樹木があります。その樹木の名前は「ネムノキ」。名前の由来は「夜になると眠るように葉を閉じるから」だそう。夜になるとネムノキは、光が無くなったことを感じて、自ら葉を閉じます。これを「就眠運動」と言います。葉を閉じる理由の一つとして、太陽光のない夜には光合成ができないため、葉を閉じて葉の表面から水分の蒸散を防いでいるのではないかとされています。ネムノキの就眠運動と同じように葉を閉じる「オジギソウ」は、触られた時や振動を感じた時、強い光を感じた時に閉じるようです。

朝と夜でネムノキの違った一面を見ることができるので、ネムノキを見つけた際には、朝と夕方に観察をしてみてもいいかもしれません。



▲ネムノキ



▲ネムノキの花

発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611

HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・大瀧裕基子

文章：大瀧裕基子・葉青芳 イラスト：葉青芳

編集：葉青芳・大瀧裕基子・吉田文雄



愛川ふれあいの村  
で、検索★

**母の愛**

カツラの本  
平成25年度9月号の  
自然のたよりにて紹介。  
是非、ご覧ください！

食堂への道すがら  
カツラの葉の裏に  
エサキモンキツノカメムシを  
発見

「ハート型」の  
「はっはっ」  
「はっはっ」

「おや??」

しっかりと体を  
覆いかぶせて  
卵を守っています

よく見ると  
卵を抱えていました

← たまご

約一週間、母親は  
幼虫がある程度大きくなるまで  
子どもを守り続けています

脱皮を  
くりかえして  
大人になります。

子どもを大切にしている姿に  
感動です

ハート型の葉っぱには  
ハート模様をしている  
エサキモンキツノカメムシ